

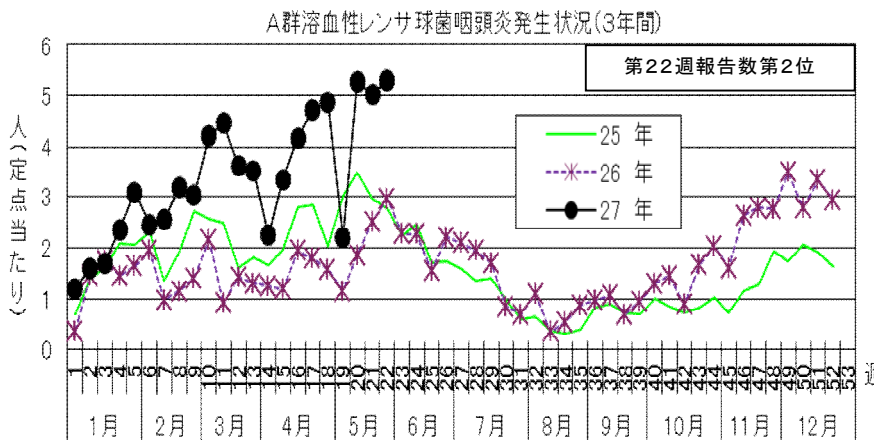
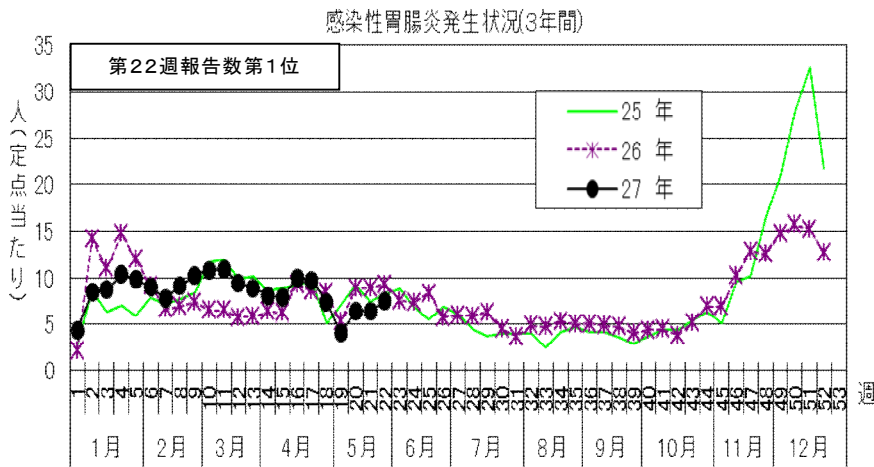
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



平成27年5月25日（月）～平成27年5月31日（日）〔第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.45人と前週（6.42人）から増加しましたが、ほぼ例年と同じレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.30人と前週（5.03人）からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.39人と前週（2.06人）からやや増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



話題の感染症～中東呼吸器症候群(MERS)～

世界保健機関（WHO）に、韓国における初めての中東呼吸器症候群（MERS：マーズ）の患者が報告されました（5月24日付け公表）。感染した男性は中東諸国からの帰国者であり、男性の入院先を中心に感染が拡大し、6月1日時点で少なくとも18人以上の感染者が確認されています。

MERSは平成24年に世界で初めて確認された感染症で、主に中東諸国で患者が報告されています。主な症状は発熱、咳、下痢などで、特に高齢者や基礎疾患がある患者の場合、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）を発症するなど重症化する傾向があります。また、感染源としてヒトコブラクダとの濃厚接触が考えられており、人から人への感染は限定的なものとされています。

気をつけたいこと！！

MERSの潜伏期間は2～14日（多くは5日）です。中東諸国から帰国後14日以内に、発熱や咳などの症状がみられ、医療機関を受診する際は、事前に医療機関のスタッフに渡航歴などを伝えてください。

